

## [理事会]

### 第1回 理事会

日時 1997年10月25日（土）

場所 新潟県中魚沼郡津南町 グリーンピア津南

出席 相川良彦 荒樋 豊 池上甲一 大野 晃 大川健嗣 嘉田由紀子  
ガボリヲ・マリ 小林一穂 木下謙治 黒柳晴夫 酒井恵真 高橋明善  
齋 理恵子 徳野貞雄 中道 仁美 細谷 昂 松岡昌則 松田苑子（18名）

#### 議題

##### 1. 新理事の選任

大会総会で選出された10名の理事によって、地区や分野を考慮して14名の理事が推薦され、大会に出席していた理事候補の了承を得たが、当日欠席の理事候補者には、事務局などを通じて承諾を得ることにし、次回理事会で再度確認することにした。

##### 2. 理事の役割分担

理事の互選により、以下のように理事会の役割分担を決めた。

会長 細谷 昂（東北大学）、副会長 高橋明善（東京国際大学）

年報編集委員長 小林一穂（東北大学） ジャーナル編集委員長 大内雅利（明治  
薬科大学） 研究委員長 北原 淳（神戸大学）

国際交流委員長 鳥越皓之（関西学院大学） 学会賞選考委員4名

当日欠席の委員長候補には事務局から連絡の上承諾を得て、その結果を次回の理事会に報告することにした。

##### 3. 各委員会の構成について

各委員長を中心に次回理事会までに候補者の推薦をしてもらうことにした。

##### 4. 次回理事会予定

12月6日（土） 東京で開催する

（文責：事務局）

### 第2回 理事会

日時 1997年12月6日（土曜日）1時～4時

場所 慶應義塾大学 三田キャンパス 旧図書館（2F）会議室

出席者 相川良彦、安孫子麟、荒樋 豊、池上甲一、大野 晃、大川健嗣、ガボリオ・  
マリ、小林一穂、黒柳晴夫、酒井恵真、齋 理恵子、高橋明善、鳥越皓之、  
中道仁美、細谷 昂、松岡昌則、（16名）

#### 1. 報告

##### 1. 学会事務局報告

###### （1）事務局体制について

98年度事務局は札幌学院大学（人文学部社会調査室）に置く。

事務局員は札幌学院大学の酒井恵真（庶務総括）、内田 司（会計）、小内純子  
(庶務)、北星学園大学の杉岡直人（通信）が担当する。

###### （2）前事務局から引き継ぎ完了

##### 2. 津南大会事務局報告

###### （1）大会報告

相川良彦会員（農業総合研究所）より、シンポジウム開催結果の報告があつた。なお津南大会事務局吉沢四郎会員（中央大学）の整理によれば、津南大会の

参加者は125名、シンポジウムのみの参加者は45名であった。

## (2) 会計報告

また吉沢会員から、学会事務局に寄せられた収支決算書に基づき、会計報告がされた。大会事務局より残金は学会会計に繰り入れるとの申し出があり、了承された。

## II. 議事

### 1. 理事の確認について

事務局から、第1回理事会に欠席の理事候補全員から了承を得たとの報告があった。また、事務局からジャーナル編集委員長を依頼した大内雅利会員（明治薬科大学）も理事とすることが望ましいとの提案があり、了承された。その結果、別掲のように25名が今期の理事として確認された。

### 2. 理事の役割分担および委員会委員について

第1回理事会で会長に細谷昂会員（東北大学）、副会長に高橋明善会員（東京国際大学）、年報編集委員長に小林一穂会員（東北大学）が確認了承されていたが、候補の委員長の打診結果が事務局から報告された。研究委員会委員長は北原 淳会員（神戸大学）が、ジャーナル編集委員会委員長は大内雅利会員にそれぞれ承諾を得た。国際交流委員会委員長は予定の鳥越皓之会員（関西学院大学）から、自分は前々回の委員長でもあり、続けて担当するのは望ましくない、検討を要するとの回答があったことが報告され、理事会で検討した結果、望ましくないことは承知しているが、今期の国際交流委員会の課題との関係からして、是非お願いしたいとの意見で一致した。今期の特殊事情を考慮した上で鳥越会員に再度依頼し、本人も承諾した。

学会賞選考委員は、第1回理事会の席上、4名の委員が推薦され、当日欠席の委員候補からも承諾を得た。しかし、理事以外の委員が決まっていないので、今回の理事会までには委員長の選任はできなかった。理事の委員から世話を出して、理事以外の委員を選任の上で委員長を互選し、結果は次回理事会に事後報告してもらうことにする。

各委員会の委員はそれぞれの委員長を中心に人選を依頼していたが、年報編集委員、ジャーナル編集委員は別掲のように決まった。国際交流委員の人選については、鳥越委員長に一任し、後に報告をしてもらう。研究委員は北原委員長の希望で理事会で推薦する。研究委員は地区研究会担当との関係を持たせて選任する。理事会としては別掲の8名を推薦する。

### 3. 研究委員会の報告と課題

相川良彦前委員長から前期の研究委員会の活動と課題について報告があった。研究委員会としては、報告及び年報編集に余裕のもてるようできれば2年先の大会テーマとコーディネーターを設定すること、その場合委員会が決めるのではなく、会員からの自主的に手を上げてもらうことに心がけてきた。その結果、既に来年のコーディネーターは確定しており、さ来年もテーマの内容とコーディネーターについては基本的方向が確認されている。ところで2年先まで確定してしまうと、当期の委員会が任期中にテーマの設定と運用に直接関与しないという矛盾が生じる。したがつて今後の進め方として、2年先の大会テーマは大会総会時において基本方向の確認にとどめ、その後の新研究委員会（長）とコーディネーター候補とで相談してもらいたい。半年後（今回でいえば98年4月18日）の理事会で提案してもらい、確定するというルールで良いと考える。なお、研究委員会と年報編集委員会、さらに地区研究会との連携を密にして行く必要があり、その具体的な連携の仕方

については、後日にもう少しつめてもらいたいとの意見があった。

#### 4. 編集委員会の報告と課題

##### (1) 年報編集委員会

小林委員長から年報編集方針について報告があった。33号の発刊が遅れていたが、2月上旬に発刊される見通しとなった。34号の編集に着手しなくてはならない。大会報告に基づく編集をすすめるために大会のコーディネーターに編集委員に加わってもらうことにした。34号については、大会報告の5~6本を中心に特集として編集する予定である。また、今回テーマの山村問題にかかる自由投稿も募集する。募集記事を通信に掲載する。研究動向は文化人類学、外国研究=南アジアを含む5分野を予定している。

##### (2) ジャーナル編集委員会

荒樋前編集委員（農村生活総合研究センター）からジャーナル編集委員会の活動報告があった。

第8号の編集状況の報告。審査済1、審査中3、依頼1、書評6を中心に編集中。

3月に発刊予定。委員会の編集体制を強化するために、従来の編集長、各号担当委員、編集事務局の他に論文管理委員（単数の論文の審査過程における連絡事務を一元的に行う）を置くことにした。

なお、前年度から実施された学会賞の結果報告は、ジャーナルで行うことを見直した。ジャーナルには審査結果と審査内容を掲載し、受賞者にも何らかの原稿を寄稿してもらうことが望ましい。掲載方法については、編集委員会に一任する。

#### 5. 國際交流委員会の報告と課題

鳥越委員長から国際交流に関する報告があった。2000年のI R S Aの大会は候補地が3つあったが、最終的にはブラジルに決まった。また、村研に関連する国際組織としてはアジア農村社会学会がルーマニア大会の場で結成され、韓国が会長、日本が副会長（河村能夫会員）となり、1999年に大会開催を予定していたが、この組織は現在は機能していないと思われる。河村会員とも連絡を取って見るが、当面は活動停止状態と思われる。また、アジア農村社会学会の日本選出の理事は、国際交流委員会の委員長が兼任することがすでに村研の総会および理事会で認められているので、そのことをここで再確認しておきたい。

なお、会長および事務局から、2004年のI R S Aの大会を日本で開催するかどうかの問題は、2000年のI R S Aの大会までに意思決定しておかねばならず、その為には今期の理事会は1999年の村研大会までに結論を出しておかなければならぬ。しかし、その問題については新たに別の組織をつくって検討するのではなく、まず国際交流委員会で検討してもらうことにする。その上で何らかの必要があれば、理事会に改めて提起してもらうことにすると提案があり、了承された。

#### 6. 学会賞選考委員会の報告と課題

池上甲一前委員長（近畿大学）から初めての学会賞選考の経験に基づき、若干の提案があった。選考委員には理事以外に、分野を考慮して選任すべきである。また、委員は委員長以外は公表しない方が良いのではないか。また選考委員は推薦に積極的に関与すべきかどうか、積極的な発掘は理事会の役割でもあるのではないか等について、検討する必要がある。

問題提起を検討した結果、委員の公表は事前には委員長のみ、結果報告のときは全委員

を公表することで一致した。また推薦の役割は委員も積極的に関与しても問題はない。理事会も協力するが、会員にアンケートなど出して、発掘に努力する必要もあるという意見が出された。

## 7. その他の課題と方針

I R S A の検討体制について（5を参照）

## 8. 新入会員、退会の申し出状況

新入会員申し込み3名、退会1名あり。新入会員は手続き中であるが承認された。事務局から各理事に入会申し込み書と入会のシオリを送付するので、活用をお願いしたいと依頼があった。

## 9. 次回理事会の日時と会場

第3回 理事会 4月18日（土曜日）午後1時～4時

慶應義塾大学（三田） 旧図書館会議室（2F）（予定）

## 10. その他

学会の財政状況がかなり逼迫した状況にある。予算運用の改善を図るよう検討をするべきではないか。今春は一時的に資金不足になる可能性もあり、予算運用に困難が予想される。会費納入の促進や予算編成の仕方、予算運用の仕方に工夫が必要である。会費納入方法の改善案として、自動納入方式を検討しても良いのではないか、などの意見が出され、今後検討を重ねることにした。

（文責：事務局）